

## 前橋ビジョン発表会（2016. 8.3）

### 第一部

（司会：田城寺良子～以下、田城寺）

皆さま、本日は前橋ビジョン発表会へようこそお越しくださいました。

まず始めに前橋ビジョンについて少し説明をさせていただきます。前橋ビジョンとは、民間の視点から前橋市の特徴を調査・分析し、前橋市の将来像を見据え、どんなまちを目指すのかを示すまちづくりに関する提案です。この前橋ビジョンの策定にあたっては、前橋市と一般財団法人田中仁財団が、前橋市の施策である都市魅力アップ共創推進事業として位置付け、連携して取り組んできたものでございます。今回のプロジェクトの中心的な役割を担っております、一般財団法人田中仁財団 代表理事の田中仁さんと、山本前橋市長との関係ですが、今から3年前の平成25年9月に遡ります。山本市長は東京の当時原宿にあったジェイアイエヌ田中社長のオフィスを訪ねました。目的は、前橋のまちの活性化についての意見交換。市長は田中さんの「東京から見た前橋について」の話に非常に興味を持ち、それ以来、前橋の将来について幾度となく意見交換を重ねました。そんな中で田中さんから「前橋を良くするためのビジョンを作りましょう。」と提案され、本年2月から事業がスタートし、中間報告を経て、本日の本発表を迎えることとなりました。それでは、山本市長に一言ご挨拶をいただきます。

（前橋市長 山本龍～以下、山本）

皆さん本当にありがとうございます。こんなにたくさんお出掛けをいただきました。歌謡コンサートでもなければ、ロックでもありませんけれども、何故に皆さんこうやってお出掛けいただけたのでしょうか。

それは皆さんが前橋というふるさとを愛しているからです。いえ、それ以上に前橋というふるさとの未来を案じているからです。市長に任せておいて大丈夫なのか。一肌なにか力を出してやろう、そういう気持ちがある皆さんがここにお寄りいただけたと、そう私は信じています。

良く聞く言葉があります。こんな言葉があります。「市長は権限を持っている。全ての市民の全ての願いを叶えられるんだ。」本当でしょうか。答えは全くの嘘です。私にある権限は予算案と条例案を議会に提出することです。予算が通れば立派な道もできる。大きな建物も作ることができる。しかし、道が通れば黙っているだけで幸せが来るのでしょうか。立派な校舎ができれば、いい子どもが自然と生まれるのでしょうか。

私は社会の医者です。悪い部分を手術します。きっちりと手術ができます。しかし、手術が終わったあと、リハビリを頑張る、食事制限を頑張る、あるいは歩行、ウォーキングをする、それは医者の仕事ではありません。みんなの仕事です。今日、たくさんの市民がビジョンを打ち立て、そしてそれに呼応するようにたくさんのプロジェクトが皆さんのお

手元に届けられます。あまり評判が良くなかったNHKの大河ドラマ（注：「花燃ゆ」）ですが、私は好きでした。吉田松陰や楫取素彦の言葉は心を震えさせました。一粒の糶としてこの土の中で春を待とう、そして花を咲かせよう。その言葉です。今たくさんの市民がこのふるさとという大地の中に大きな花を咲かせよう、いや、小さな花かもしれません。そんな思いで今日舞台の上でご報告をさせていただきます。1年間、このビジョンに向かって力を貸してくださった、まずはたくさんの市民をご紹介します。

#### <ビジョン委員会入場>

（田中仁財団 代表理事 田中仁～以下、田中）

皆さん、本日はたくさんお集まりいただきありがとうございます。私は山本市長にビジョンの必要性をずっと訴えてきました。ここにお集まりいただいているビジョン委員会のメンバーと1年間たくさん議論をして今日ご発表できることを本当に嬉しく思っています。

ビジョンというと、皆さんそんなことはもう知っていると言われるかもしれませんが。ところが、割と深いです。ビジョンは例えるならば山の頂上、あるいは木の根っことも言えます。いろいろな組織で掲げるビジョンは数値目標が多いですね。人口を何人にしよう、あるいは売上げをいくらにしよう。でもそういったビジョンは外部環境が変わると、捨て去ってしまうようなビジョンなのです。今回、私が山本市長に提案をしたのは50年、100年経っても変わらない価値です。だから前橋はこれからどういう価値を追及し続けることで差別化された、とても素敵なまちになるのか。行政の皆さんも働きやすい、あるいは市民の皆さんも働きやすい、そういう皆さんが共有できるそういったビジョンというものの必要性を訴えてきました。今現在をみると本当に素晴らしい方々がたくさんいるのですが、全てが点として存在しています。点として存在して、1つの方向に向かうということがなかなかできないために、この前橋という魅力を適確に、明確に輪郭を表すことができないでいたというのが、私の率直な感想です。これを目指すべき姿として、全ての活動が集約される、点在する前橋の魅力をどのように表現するのか、あるいは前橋の本質、強みはどこにあるのか、どうありたいのか、どこに向かうのか、それが前橋ビジョンだと私は思っています。

「これを作りましょう」と市長に言いました。ビジョンが明確だと例えばそこにある食、あるいはアートであり、市の施策であり、産業施策であり、ホテルであれ、何であれ共通した価値を持つと、集約されて山の形が、輪郭がはっきりして魅力的になるのです。でも、それが今までなかったのです。

47都道府県どこの行政を見ても、本当に50年、100年変わらない価値を持っている、そういったビジョンを掲げているところはあるだろうか。実はあまりないのです。実は企業もそうで、企業もそういった明確な価値に基づいたビジョンを持つと、必ず成長す

るのです。でも、それをなかなか持ち得なく、結構ビジョンと言っても難しく、これを作るということについて非常に苦労しました。ビジョンがあることで、今からまちづくりというのは、たぶん3年、5年、10年ではできません。たぶん50年、100年、そういった単位で考えるものだというふうに私は考えています。でも、今、一歩階段を上がないと到達もしない。また、魅力も上がらないのです。ですから、ビジョンのあるまちづくりということをすることで、皆さんが価値を共有することで、変わるのだということをして市長と話したら、山本市長も「田中さんが言うことが分かった。じゃあお互い手を取り合って頑張ろうじゃないか」ということになりました。では、ビジョンをどこでも作れるかといえばそうじゃないですね。結構難しいのです。それで私は前橋を、世界に誇れる前橋にしたいというふうに思って、これを前橋に対して先入観がない、バイアスがかけられない、外の視点から見て欲しいと思って、ドイツ・ミュンヘンにあるKMS TEAMというコンサルタント会社に前橋の分析を依頼しました。彼らは、しばらく前橋に滞在して、先ほど登壇された関係者、その他市役所が市民にアンケートした数千人の結果、そういうものを持って、新しくビジョンを作ったわけではないのです。前橋がもともと持っているこのDNAからビジョンを抽出したのです。その経緯を当事者のKMS TEAMの役員サイモンに説明をしていただきたいと思います。

#### <サイモン氏登壇>

(KMS TEAM サイモン～以下、サイモン 通訳：二口)

前橋の皆さんお招きいただきありがとうございます。そしてこのプロジェクトに関与させていただいたことを大変光栄に思います。そして、山本市長、それから田中さんに感謝の念を申し上げます。お二方が、私が前橋に関与するにあたって大変貴重なチャンスを与えてくださいました。

私の役割というのは、一種の鏡のようなものです。何の偏見もなしに、日本語も全く分からない、日本のカルチャーも分からない中で、皆さまのありのままを照らす鏡。それが私の役割でした。前橋でたくさんの方々にお会いしまして、いろいろな対話をしました。歴史も学びました。そういったいろいろな情報を通じて鏡として皆さんを写し出したということです。皆さまのように、前橋に住んでいらっしやったり、働いていらっしやるとなかなか自覚しづらいかもしれませんが、そこにはたくさんのポテンシャルが眠っています。そして、それを表舞台に引き出すと、発揮することが非常に重要になります。さまざまな個性の中から体感できるコミュニティがあるという気付きに到達しました。我々、ドイツからやって来てもですね、確実にこの前橋には、実感のできるコミュニティがあるというふうに感じました。それから2つ目の柱はさまざまな物事のバランス、調和が取れているというふうに感じました。これは前橋の未来を描いていく上で非常に重要だと思っています。何か特定の分野や特定のものに対してフォーカスするのではなく、バランスを取って

いくというのが2つ目の柱だと思いました。そして3つ目の柱。非常に熟慮された取り組み、むやみやたらに進化、変化を急ぐのではなくて、適切なスピードでもって進化を遂げていくと、そこにはしっかりと熟慮された取り組みがあるというふうを感じ取れました。今述べました3つの柱を統合して修練して、分かりやすい形で、皆さまが実感できる形でビジョンに落とし込みました。それが「Where good things grow. いいものが育つ場所」といった具合に定義いたしました。私が個人的にゴールとして夢見ますのは、私自身が例えばこの前橋という土地に住みたいと思うと、子どもを育てたいとかそういった感情を揺さぶられるような、そのようなまちにしていけたら、非常に理想的だなと思いました。ありがとうございました。

(田中)

サイモンが先ほど言いました「Where good things grow.」、これが前橋の英語版ビジョンですが、これを前橋が生んだ素晴らしい糸井重里さんという、もうコピーライターとは言えず、文化人というか、なんと言うか説明が難しいのですけれども、糸井さんに解釈をしていただきました。この前橋のビジョンコピーを前橋文学館の館長である萩原朔美さんにこれから朗読をしていただきたいと思います。それでは、お楽しみください。

(前橋文学館 館長 萩原 朔美)

「めぶく。

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。

風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。

そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、

強く太い幹となる日を夢見ている。

人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。

いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。

ここから、よきものが伸びてゆく。

いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていくだろう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、

未来に希望の森を見るために、

厳しくも優しい風になろう。

慈しみの雨になろう。

そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。

前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。」

<ビジョンムービー上映>

<https://youtu.be/0MxX-nua4iU>

(円城寺)

皆さま、ついに前橋ビジョンが発表されました。続いては、この前橋ビジョンのもと、現在計画中の事業プロジェクトを発表してまいります。それではプロジェクトのプレゼンターの皆さま、どうぞステージにお越しください。

(円城寺)

プレゼンテーションに先立ちまして、各プロジェクトのプレゼンターの皆さまをご紹介します。

飲食プロジェクト 料理人 澤井雷作様

街中リバーフェス in 広瀬川プロジェクト カップクラブガイド 宮尾貴明様

ホテルプロジェクト 藤本壮介建築設計事務所 藤本壮介様

農業プロジェクト ファームドウ 田村育美様

和菓子プロジェクト 株式会社ナニラニ 村瀬隆明様

歩いて健康プロジェクト 前橋市民健康クラブ 釜谷邦夫様

飲食プロジェクト 飲食店オーナー 阿部光峰様

カフェプロジェクト 前橋まちなかエージェンシー 橋本薫様

都市再生計画プロジェクト 石井設計 石井アーバンデザインリサーチ 石井繁紀様

教育プロジェクト 前橋市教育委員会指導担当次長 塩崎政江様

以上の皆さままでございます。早速プレゼンテーションに移りたいと思いますが、プレゼンテーションは前半5組、後半5組に分けて実施したいと思います。それではご準備よろしく願いいたします。

(円城寺)

お待たせいたしました。最初のプロジェクトは飲食プロジェクト、プレゼンターは料理人の澤井雷作様です。よろしく願い致します。

(澤井)

皆さん、こんばんは。料理人の澤井雷作です。どうぞよろしく願いします。突然ですが、皆さんはアメリカのポートランドという場所をご存知でしょうか。今、全米で最も優

れたまちでございます。食文化や環境が優れた場所で、そのポータルで大人気なハンドクラフトパスタ店 GRASSA を独占契約させ、前橋に日本初上陸することになりました。今まで東京で培ってきた技術と GRASSA のオリジナリティあふれるスタイルをベースに地元前橋の素晴らしいお野菜や豚肉などを使い、週 1 回 GRASSA のパスタが食べたいなあと思える店を作りたいです。そして何より、前橋の商店街が賑わい、元気を取り戻せるような地元作りを目指したいです。未来を恐れず、前を向いて進んでいきましょう。そして、皆さん、本当に楽しみにしててください。ご清聴ありがとうございました。

(円城寺)

飲食プロジェクト、料理人の澤井雷作様でした。ありがとうございました。続いてのプレゼンテーションは街中リバーフェス i n 広瀬川プロジェクト、プレゼンターはカップクラブガイド宮尾貴明様です。よろしくお願いたします。

(宮尾)

皆さん、こんばんは。僕らは群馬県が誇る利根川で、ラフティングを中心にシャワークライミング、ハイドロスピードなど、さまざまなアクティビティを提供させていただいておりますアウトドアカンパニー、カップクラブです。今回は、僕らの経験、リバースキルを引っさげ、ここ前橋のど真ん中を流れる広瀬川をアクティブなリバースポットにすべくやってきました。来る 9 月 19 日、題して、「街中リバーフェス i n 広瀬川」。古くは江戸から物資などを運ぶ舟運などで栄えたここ広瀬川を舞台に、今、爆発の人気を誇るこちらのサップ、スタンドアップパドルボート。そして、先日テレビ放送でも取り上げられましたこちらのハイドロスピード、いわゆるリバーボードを使ってレースを行ないます。そして、誰でも参加していただけるこのアヒルちゃんを使ったダックレース。こちらを開催したいと思っております。先日、実際に下見を行なった時の模様がありますので、こちらの映像をご覧ください。

<映像>

この時もそうだったのですが、市長自らも見学しに来ていただきまして、まち行く人が気軽に足を止め、観戦でき、選手、観客そしてまちが一体となってここ広瀬川をさらにパワーアップした前橋のシンボルとして、発信していくために是非皆さまのご協力、ご尽力をいただきまして、当日のご参加お待ちしております。ありがとうございました。

(円城寺)

街中リバーフェス i n 広瀬川プロジェクト、カップクラブガイド宮尾貴明様でした。ありがとうございました。続いてのプレゼンテーションは、ホテルプロジェクト、プレゼンターは藤本壮介建築設計事務所 藤本壮介様です。よろしくお願致します。

(藤本)

皆さん、こんばんは。僕が今日紹介するのは、ホテル白井屋です。皆さんご存知のように、前橋市内で300年の歴史を誇ります白井屋。この旅館、今はホテルを新しい前橋の拠点となるようなホテルに再生させようというプロジェクトです。そのコンセプトを、今ここに映し出しておりますけれども、まず、前橋のリビングのような場所にしたいと思っています。ホテルなのですけれども、滞在していない地元の方が気軽に訪れて、そしてそこで時間を過ごすことができるような、そういう場所にしたいなと思っています。そして、2番目、良いものを育てる拠点、そのような形で地元の方が、こう集って来た時に、「じゃあそこでイベントやってみようか」とか、「展覧会やってみよう」とか、そういうふうに、さまざまな出来事が起こってくるような、そういう拠点となるような場所にしたいと思っています。そして最後、3番目がミーティングポイント。ホテルですから日本各地、それから世界各地からさまざまな方が滞在しにいらっしゃいます。その時に、地元の方とそれから世界各地からやってくる方々が交流をして、そこで何かが生まれてくる。まさに芽吹いてくる、色々なことが芽吹いてくるような、そういう可能性に満ちた場所にしたいと思っています。今進めている計画ですが、前橋らしさをなるべく生かしたいなと思ひまして、素材にはレンガをメインに使っております。そして今ある建物をなるべく生かして、それを再生しながら使っていきたいと思っています。(背景の写真を指して)右下の絵は、まさに前橋のリビングになります大きな吹き抜けの場所なのですけれども、このような光溢れる大きなスペースを作りまして、そこにさまざまな人が集い、そしてさまざまな出来事が起こって色々なことが芽吹いてくる。前橋の歴史、それから文化を継承しながら未来へとつながっていく、そういう場所を作っていきたいと思っています。楽しみにしててください。ありがとうございます。

(円城寺)

ホテルプロジェクト、藤本壮介建築設計事務所 藤本壮介様でした。ありがとうございます。続いてのプレゼンテーションは、農業プロジェクト、プレゼンターは、ファームドゥ田村育実様です。よろしくお願ひいたします。

(田村)

若者に夢のある新しい農業のかたちの創造。私たちファームドゥグループでは、第一に、魅力を高める農業の六次産業化を推進し、農家の所得向上を行ないます。生産者が自分で値段を決めて、本格的に販売することができ、サラダなど付加価値の高い加工場も計画します。第二に、太陽光発電と野菜栽培で、前橋発のスマートアグリを実践します。写真の太陽光パネルと野菜栽培のソーラーシェアリングでは、一つの土地から電気と野菜の二つの収入を得ることができます。宮沢賢治が言う雨にも負けず、夏の暑さにも負けない人と野菜に快適な環境を作ります。このシステムで、農業者を増やし、耕作放棄地の解消につ

なげます。また、CO<sub>2</sub>の削減で、地球環境にも貢献します。第三に、3,000万円の  
高収益モデルを紹介します。グラフをご覧ください。現状1,000万円の方でも、農業  
者の収入はソーラーシェアリングで3,000万円となります。新規就農者も努力次第で  
この収入モデルが実現可能です。このようにスマートアグリを普及し、若者に夢のある新  
しい農業の形を創造します。同時に耕作放棄地の解消とCO<sub>2</sub>の削減により地域社会や地  
球環境に貢献してまいります。本日はありがとうございました。

(円城寺)

農業プロジェクト、ファームドゥ田村育実様でした。ありがとうございました。続いて  
のプレゼンテーションは、和菓子プロジェクト、株式会社ナニラニ村瀬隆明様です。よろ  
しく願いいたします。

(村瀬)

皆さん、こんばんは。私は、前橋銘菓和むお菓子づくりに挑戦したいと思っております。  
実は私は群馬の人間ではありません。お仕事を通してご縁がありまして前橋、群馬に数年  
前から何度も足を運ぶようになりました。前橋の空気、風景、人々に触れ合うたびになん  
だか東京の生活では味わうことのない和んだ気持ち、和みを感じる自分がいました。社会  
は目まぐるしいスピードで今変化していて、その変化に対応したり、自ら変化を起こした  
り、そういったことが必要になってきている世の中だと思います。ただ、そんなスピード  
についていくだけではなくて、時には立ち止まりホッと一息和む時間、そういったものが  
今の世の中には大切なんじゃないか、そういったことを気付かせていただきました。この  
前橋の和みを世の中に伝えることができれば、ちょっとだけでももっと世の中が良くなる  
のではないかな、そんなことを感じるようになりました。もう一つ前橋で感じたことがあ  
ります。前橋にはたくさん素晴らしいものや美味しいものがあると思いますが、私のような  
よそ者が前橋を訪れた時に、「お土産といえばこれっ！」といったものがちょっと少ない  
ように感じました。「前橋のお土産といえばこれっ！」そう言われるような和むお菓子を作  
り、この私が前橋で感じた和みを世の中に届けたい、そういった挑戦をしたいと思ってい  
ます。私が敬愛する企業の一つにAppleという会社があります。皆さんもご存知だと思  
いますが、彼らはパーソナルコンピューターで始まり、音楽の楽しみ方を変え、そして  
iphone、スマートフォンで社会の暮らし、世の中を変えて来ました。折角挑戦するのであ  
れば、世界を変えたAppleのように、和菓子界を変える和みで、前橋の和みで前橋を変え  
る、世界を変える、和菓子界を変える、そんな意気込みで挑戦したいと思っております。  
ご清聴ありがとうございました。

(円城寺)

和菓子プロジェクト、株式会社ナニラニ村瀬隆明様でした。ありがとうございました。



以上で前半5組のプレゼンテーションが終了となります。飲食プロジェクト、街中リバーフェス in 広瀬川プロジェクト、ホテルプロジェクト、農業プロジェクト、和菓子プロジェクトなどたくさんの取り組みをご紹介させていただきました。プレゼンターの皆さま、ありがとうございました。どうぞご降壇ください。

(円城寺)

それでは引き続き、後半のプレゼンテーションを始めて行きたいと思います。後半最初のプロジェクトは、歩いて健康プロジェクト、プレゼンターは、前橋市民健康クラブの釜谷邦夫様です。よろしくお願いいたします。

(釜谷)

釜谷です。よろしくお願いいたします。ご覧のとおり、DMI 28、ちょっとメタボの釜谷です。整形外科をしております。私どものメンバーです。こちら一番端にいらっしゃるのが齋藤先生です。内科の先生です。一応スタッフが全部揃っています。前橋市民健康クラブというのを立ち上げて、そこで皆で歩こうと、そういう話になりました。それでまず、歩き方ですけれども、活動量計というのを付けていただきます。ちょうどマッチ箱ぐらいの大きさですけれども、それをぶら下げていただいて、それで2か月間の運動量を見ることができます。それで、適切な運動をしているかどうか、だいたい1日8,000歩、その中に早足歩き20分が目標です。そのくらい歩きますと、糖尿病とか高血圧とかメタボとか色々な病気が予防されます。その歩いた情報をもとに、私たち医療スタッフが、さあ、これからこういうふうに歩きましょう、こういうふうに食事を気を付けてやりましょう、そういうふうなことでご指導させていただきます。キーポイントはまちなかで歩いていただきたい。健康ステーションというのをスズランの正面向かいに作ることにしました。9月からやります。そこで、皆さんに集まっていただいて、1か月に1度はまちなかを歩いていただこうと。そうするとこれからもうどんどん、まちも元気になりますし、ただ健康で長生きするだけでなく、皆で楽しく活気のあるまちを前橋のなかに作って、それで頑張っていこうと、そういうプロジェクトです。よろしくお願いいたします。是非、前橋のまちのなかに遊びに来てください。楽しく健康を守りましょう。よろしくお願いいたします。

(円城寺)

歩いて健康プロジェクト、前橋市民健康クラブの釜谷邦夫様でした。ありがとうございました。続いてのプレゼンテーションは、飲食プロジェクト、プレゼンターは飲食店オーナー阿部光峰様。よろしくお願いいたします。

(阿部)

どうも、はじめまして。阿部光峰と申します。東京で、いくつか飲食店をやっております。

して、東京を中心にお店を今構えているのですが、東京は本当に素晴らしいまちで、お客さんも本当にたくさんいますし、単価も狙えるということで素晴らしいところではあるのですが、その反面、深刻な人手不足が起きていまして、店はオープンしたいけど、スタッフが一人も集まらなかったなんていう話もチラホラ出てきている状況です。今後その東京だけに一点集中していいのかという気持ちでいたところ、今回のプロジェクトで声を掛けていただきまして、チャレンジさせていただくことになりました。銀座で11年間イベリコ豚を使ったお店をやっていた経験がありまして、豚には縁があるのですが、今回、前橋の美味しい豚を食べさせていただいて、是非、この豚で勝負をしたいという気持ちになりました。料理のジャンルは見ていただくと分かる通り、とんかつです。私は個人的に一番好きな豚肉の料理ということもありますし、一番豚の美味しさをそのままストレートに伝えられる料理です。たぶんこれを食べて美味しいと思っていただける方は、料理が美味しいというよりも前橋の豚が美味しいと思ってもらえるのではないかなと思っています。目指すからには最高のとんかつを目指したいと思います。肉の切り方から揚げ方から温度から、衣をどうするのか全てのものに一つひとつ極めて行きたいと思います。多くの前橋の皆さんに食べていただけるようなとんかつを目指しますので、よろしく願いします。どうもご清聴ありがとうございました。

(円城寺)

飲食プロジェクト、飲食店オーナー阿部光峰様でした。ありがとうございました。続いたのプレゼンテーションは、カフェプロジェクト、プレゼンターは、前橋まちなかエージェンシー橋本薫様です。よろしく願いいたします。

(橋本)

皆さん、こんばんは。前橋まちなかエージェンシーという市民のためのつなぎ役をやっております橋本と申します。よろしく願いします。後ろにいる二口さん、そして田崎さん、彼らは前橋出身ではなくて、これまで前橋には縁もゆかりもなかった二人なのですが、前橋に可能性を感じたということで、よそ者と若者とばか者が結束して立ち上がった市民のためのエージェンシーです。私たち普段、前橋まちなか研究室という場所を拠点として市民活動、行政、各団体、地元企業、教育機関そして世界のクリエイティブと前橋をつなぐ活動をしています。例えば、今回のビジョン策定にも関わらせていただいたりとかして、前橋の中だけで完結するのではなくて、外からの眼を気にしながら新しい物を作りだったりとか、コミュニティ作り、そういったことをお手伝いする、そんな機能を担っております。さて、この私たちには「まちなか」という言葉が付いています。まちなかっていう言葉、皆さんどんなイメージをされるでしょうか。前橋の場合ですと、皆さん恐らく「今更まちなか？」っていうそういう答えがたくさん出てくると思います。でも私たちはそのまちなかが可能性に満ちているように見えるのです。この土蔵を見てください。

私たちはこの土蔵をたくさんの方が集まるカフェにしたいと思います。皆さん、どう思いましたか。恐らく多くの方がこれはもう朽ちていて無理だろうと、これを綺麗にカフェにするのは大変だろうと諦めてしまうのではないのでしょうか。これはきっと今の前橋のまちなかの状況と同じではないのでしょうか。元々は立派だった蔵も人の目が向けられなくなってしまふとこのように朽ちてしまいます。しかし、もう一度時間と手を掛ければきっと息を吹き返すことができます。まちづくりも同じではないのでしょうか。この土蔵カフェがオープンした時、きっと誇れる居場所が一つ増えるのではないのでしょうか。私たちの本業はカフェではありません。このカフェプロジェクトはほんの一例です。私たちは前橋の芽吹きのために、何か自分たちでできることを見つけます。皆さんも一緒に前橋を芽吹かせましょう。私のプレゼンは以上です。ありがとうございました。

(円城寺)

カフェプロジェクト、前橋まちなかエージェンシー橋本薫様でした。ありがとうございました。続いてのプレゼンテーションは、都市再生計画プロジェクト、石井設計石井アーバンデザインリサーチ石井繁紀様です。よろしくお願ひいたします。

(石井)

ご紹介いただきました石井設計石井アーバンデザインリサーチ代表の石井です。私たちは、中心市街地の再生に取り組んでいます。中心市街地はまちの顔、前橋においても同様です。

さまざまな歴史遺産を有する中心市街地。それらと調和、融合、発展し、前橋のアイデンティティを現す将来のまちの姿のイメージを作りました。

<映像上映>

中心市街地には新公共交通が開通し、市民の利便性が高まっています。周辺との調和を重視した街並みは県都前橋にふさわしいたたずまいを漂わせています。歴史的建造物が再築され、まちに新たなシンボルが生まれます。水と緑溢れるセントラルパークができ、住む人、働く人に憩いと潤いの場を提供しています。これを夢で終わらせるのではなく、現実へ。中心市街地の再生は市民の皆さまのご理解、ご協力、そしてここに住もう、ここに企業やお店として出店しよう、そういった方々の融資が集まることで実現するのです。自分たちのまちは自分たちで作る。次の世代のためにまちを作る。一緒に前橋のまちの未来を作りましょう。私のプレゼンは以上です。ありがとうございました。

(円城寺)

都市再生計画プロジェクト、石井設計石井アーバンデザインリサーチ石井繁紀様でした。ありがとうございました。続いてのプレゼンテーションは、教育プロジェクト、前橋市教育委員会指導担当次長塩崎政江様です。よろしくお願ひいたします。

(塩崎)

未来の前橋の活性化のためには、人を育てること。まさに、教育です。今日は、前橋で子どもを育ててよかったと思えるための子どもの育ちと大人の役割について、教育のビジョンをお話したいと思います。泥だんご。皆さんは作れますか。これができるまで何度も何度も失敗し、挫けそうになり、でもまた挑戦してやっとできたこの達成感。満足感。これはじっくりやらせてくれる大人がいなくてはできません。今、どれくらいの子がこんなどろんこ遊びを十分にさせてもらっているのでしょうか。体も爪の中までも汚れ、服も真っ黒。友達と泥を付けたの汚れたのでトラブルにもなる。花まる学習会の高濱さんは、「日本はトラブル回避が50年続いてきた結果が今の子どもたちの課題なのだ」と言っています。危ないものは持たせない。汚いものは触らせない。喧嘩をしないようにすぐ分ける。子どもの育ちの根っこは、幼児期にあります。友達とぶつかり合って、自分たちで解決していく。そういうことをさせてもらえなかったら、どんな大人になっちゃうでしょうか。子どもたちが自立し、人とともに生きて行けるようになるための体験をさせる。これは我々だけではとんでも無理です。皆さんと一緒に子どもにとって本当に大切な体験ができるように、そして親も一緒に育つよう取り組んで行きたいと思っています。そのために前橋には、児童文化センター、幼児教育センター、こども図書館など、自分で考えたり活動したり、色んな人と関わったりできる全国に誇れるところがあります。その活用も広げていきたいと考えています。そういう考えのもとに、学校教育があります。子どもたちが学びの主人公、子どもが主体になる学習活動を充実させて行きたいと考えています。(背景の写真を指して) このスクリーンのような顔が毎日の学習の中で見られるよう、授業作りも進めて行きます。実は、全国でも最先端のICT機器の導入が今年中に全部の学校で完了します。これも子どもたちがやらされているのではなく、自分たちで使えるようになることを目指しています。そして、放課後。子どもの貧困問題も含め、何とか子どもたちの主体的な学びと社会性を付けたいと地域の人の力を借りて、「地域寺子屋」をこの5月から始めました。子どもの育ちは市民の方の力が関わることで、未来の社会、未来の前橋を作る人になっていきます。自分が好き！人が好き！そして、ふるさと前橋が好き！そんな子が前橋の宝なのだと思っています。「Where good things grow.」素敵な子どもが育つ場所、前橋。子どもたちの芽吹く力を皆さんと一緒に育てましょう。ありがとうございました。

(円城寺)

教育プロジェクト、前橋市教育委員会指導担当次長塩崎政江様でした。ありがとうございました。以上、後半5組のプレゼンテーションが終了となります。歩いて健康プロジェクト、飲食プロジェクト、カフェプロジェクト、都市再生計画プロジェクト、教育プロジェクトなど、未来の前橋を作るたくさんの取り組みをご紹介させていただきました。プレゼンターの皆さま、ありがとうございました。どうぞご降壇ください。

(円城寺)

前橋ビジョンのもと、現在計画中の事業プロジェクトを発表してまいりましたが、続いては、同じく前橋ビジョンのもと立ち上げられました2つの活動をご紹介します。経営者の有志の会である太陽の会、そして個人の有志の会である風の会です。まずは、太陽の会をご紹介します。太陽の会の皆さま、よろしくお願いいたします。

<太陽の会登壇>

(太陽の会・天野)

皆さん、こんばんは。私は、太陽の会、17名のメンバーのひとり、GNホールディングスの天野と言います。私たちは、2月29日、前橋ビジョン中間発表を機に、何度も集まりました。私たちがこの太陽の会を構成するきっかけとなったのは、中間ビジョン発表会で発表された「grow・成長する」、この言葉に共感をし、何が私たちにできるのだろうかと考え始めたのがきっかけです。そして、なによりも、もう一つのきっかけは、田中仁さんの存在です。田中さんは膨大な時間とたくさんのお金と全ての人脈を前橋のために注ぎ込んでいる。この姿を見た時に、前橋で暮らしている企業人は何ができるのだろうかと考えました。私たちは、この前橋で、芽生えつつある新しい動きをどうサポートできるのだろうかと考えました。そこで私たちは日々の企業活動で生まれる純利益の1%または100万円どちらかを毎年寄附していこう、そして、前橋で生まれる新しい芽をサポートしていこうと決めました。この過程の中では、「100万円毎年拠出するというのは大き過ぎる」とかさまざまな論議がありました。しかし、2万円、3万円という額では思いというものが本当に共有できるのだろうかと考え、高いハードルを作り、100万円もしくは1%の毎年の企業利益、純利益の1%を拠出し続ける、そして、若い人が今日をきっかけに芽生えるであろう、そのサポートをしようということを決め、この会を発足させました。どんなメンバーか、ただ今から紹介させていただきます。

(吉田)

太陽の会メンバーであります株式会社メモリードの吉田より、今回の太陽の会発起人企業の紹介をさせていただきます。

アリギス、石井設計、協和、クライム、グランヴィル前橋、相模屋食料、サンワ、ジェイアイエヌ、双和電業、ソネット、中央カレッジグループ、ニューサンライフ、富士スバル、宮下工業、メモリード、ヤマニ熱工業、GNホールディングス

以上17社であります。

(斎藤)

同じく太陽の会メンバーの富士スバル株式会社斎藤でございます。最後に私からは、今回この太陽の会がどのようにどうして発足したかその経緯について、その思いを少しだけご説明申し上げます。私たちの思いは、非常に単純であります。生まれ育ったこの前橋市を、あるいはそれぞれの企業が最初に産声を上げた地であるこの前橋市をもっと住みやすくもっと楽しくワクワクするような、またもっとセンスの溢れるそんなまちにしたいというのがスタートでした。一部には社会的、公共的な課題ともいべきこのまちづくりは、そもそも行政が主体となっていくべきであり、民間の企業がそこに大きく関わっていくべきではないという意見もございます。しかしながらこれまでのように行政に任せっきりのまちづくりでは限界がございます。市民の皆さんや我々のような民間の企業が一体となってそこに大きく関与していくというその流れが今や全国に拡大中であります。一方でまちづくりには将来に対する責任という側面もございます。子どもたちの世代にどのようなまちが残せるのか、今こそその課題に官民一体となって取り組んでいくべきではないでしょうか。そこで、是非皆さんにお願いがございます。本日、このビジョン発表会には、たくさんの方の企業の経営者の方がお越しいただいていると伺っております。今日の発表を聞いて、私どもの思いに共感していただけたなら、是非、太陽の会のメンバーになっていただきたいと考えております。先の発起人企業の代表にでも構いませんし、まちなかにあります「前橋まちなか研究室」でも構いませんので是非コンタクトを取ってくださいますようよろしくお願い申し上げます。以上で発表を終わります。

(円城寺)

太陽の会の皆さま、ありがとうございます。どうぞご降壇ください。続きまして、風の会をご紹介します。それでは風の会の皆さま、ステージにお越しくください。

<風の会登壇>

(中村敬)

皆さん、こんばんは。風の会であります。風の会。それは、シビックプライドを育てる市民活動のハブである存在です。このビジョンに賛同していただける市民の方々の受け皿となる存在でありまして、新しい風が運ぶ芽吹きの種類を時には厳しくもやさしく育むような風でありたいという役割であります。目的は50年後、100年後を見据え、魅力ある前橋を作り、シビックプライド、市民の誇りとなる醸成させるための役割として立ち上がりました。そのために3つのコンセプトがあります。1つ目、市民からアイデアを募るとのこと。2つ目、夢を、アイデアを、実現させるためにファンディングを機能させるということ。そして3つ目です。必要とされるマンパワーを募り、機能させるということ。

す。この3つを機能させることで、動かすことで魅力ある前橋を作り、シビックプライド、前橋を誇れる活動になるというふうに考えます。

(中村有)

皆さん、この写真を見てください。この写真どこだと思いませんか。皆さんの左手にある写真、これは前橋駅前通りです。皆さんの右手にある写真、これは表参道の通りです。この2つとても似ていると思いませんか。ということは、この前橋駅前通りも表参道みたいに素敵に賑わうまちにすることができるかもしれないということなのです。お洒落なカフェが立ち並ぶ通りで、季節を感じながら食事をしたりお茶をしたり、夜のイルミネーションが輝くまちでお散歩をしたり、昼も夜も賑わうまち、そして大人も子どもも楽しめるまち、そんなまちだったらみんなワクワクしませんか。でもこんな大きな夢って私一人で考えていても、「実現は無理だな」なんてあきらめてしまうと思うのです。でもこの大きな夢を皆さんで共有しながら、皆さんでアイデアを出し合いながら、そして資金を集めながら一人ひとりの手で作り上げていく。そんなことができたならこんな大きな夢も実現すると思うのです。皆さんの心の中にある前橋に対する思いや希望そして夢、そういった小さな種を太陽の当たる場所に運ぶ、そんな風のような存在、それが風の会となりました。

(田子)

私たち風の会はこれから新しい魅力ある前橋を作っていく仲間を募集しております。一緒に新しい魅力ある前橋を作っていきますか。市民活動、市民の活躍の場、それが風の会です。ご興味、ご参加したい方はフェイスブック上に、風の会のページがございます。そちらを「いいね」していただきまして、情報共有と参加をしていただけたらと思います。たくさんのご参加をお待ちしております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(円城寺)

風の会の皆さま、ありがとうございました。どうぞご降壇ください。以上を持ちまして、全てのプロジェクトのご紹介を終了いたします。プレゼンターの皆さま、ありがとうございました。

それではここでステージ上の準備をさせていただきます。しばらくお待ちください。

<山本市長、曾我会頭登壇>

(円城寺)

それではここで再度山本市長と、前橋商工会議所の会頭であり、前橋ビジョン実行委員会の代表であります曾我孝之より感想を述べさせていただきます。

(山本)

会頭、私も始めて今ビジョンとプロジェクト、そして太陽の会さん、風の会さん、始めてのお話を聞いて驚いているのですけれども、会頭どのような感想をお持ちですか。

(前橋商工会議所 会頭 曾我 孝之〜以下、曾我)

まず、事業プロジェクト。素晴らしいですね。本当に一刻も早く具現化させて、多くの市民の支持を得て大きく育てていただきたいなと思っております。また、太陽の会、そして風の会、これもまた素晴らしいメンバーが揃ってこれからすごく期待できる会じゃないかなと思っておりますし、期待するだけではなく、できるだけ多く有志を募ると書いてありますので、多くの皆さん方がこの会に参加していただき、末永く活動を続けていただきたいなと思っております。

(山本)

ありがとうございます。私たちも何か市役所だけでなくたくさんの方々の力が借りられるということに大きな期待を持っておりますので、また会議所と併せてどうぞよろしく願いいたします。

(曾我)

よろしく願いいたします。

(山本)

ありがとうございました。

(曾我)

どうもありがとうございました。

(円城寺)

山本市長、曾我会頭、ありがとうございました。これにて第一部を終了させていただきます。前橋ビジョンに関するお問い合わせは、前橋市役所政策推進課または、一般財団法人田中仁財団までお願いいたします。この後、約20分間の休憩を挟みまして、20時40分より第二部といたしまして、山本市長、田中代表理事、ほぼ日刊イトイ新聞主宰・糸井重里氏によりますトークセッション『めぶく前橋を語る』を開催いたします。そちらを是非皆さまご列席いただきますようお願い申し上げます。

(第一部終了)